

# 平成26年度 当初予算事業の概要説明書 (兼評価説明書)

## 1. 事務事業の概要

□ 完了 ■ 評価対象 ■ 行計対象

事務事業名 (中事業)	17208 自然にやさしい農業推進事業			
基本政策	02 産業が元気！活力とにぎわいあふれるまち			
政策	03 地域特性と魅力を高めた農林業			
施策	02 消費者に求められる農業の推進			
実施形態	補助・負担金			
事業期間	単年度	平成8年度～		
要求区分	継続	予算区分	政策	
事業の実施を市に義務づける国の法令				
有無	なし			
法令名 条項				
予算科目	01-060103-040200			
部名	04 建設経済部	課名	01 農林振興課	
課長名	嶋津 悟	T E L	0795-22-3111	内線 323

## 2. 対象・目的・内容

事業概要	<p>自然にやさしい環境循環型農業の推進を図る。 化学合成された肥料や農薬の使用低減を図り、市内で生産される有機質資材を活用しながら有機土壌化を進める。</p>
事業の対象 (誰・何を)	認定農業者、集落営農組織、農産物生産グループ、特産開発グループ、個人農業者、農会
事業の目的 (どういう状態にするために)	減農薬・減化学肥料及び有機質資材を活用した環境循環型農業を推進することにより、良質で安全・安心な農産物を提供するとともに、西脇独自の農産物のブランド化を図る。
事業の内容 (どういう内容を行うのか)	堆肥購入費の1/2助成、ひょうご安心ブランド、西脇ファーマーズブランド等にかかる分析や実証ほ委託

## 3. 年度別事業費

(単位：千円)

	事業費	財源						
		国庫支出金	県支出金	地方債	分担金負担金	使用料手数料	その他	一般財源
平成23年度決算額	5,109	0	500	0	0	0	0	4,609
平成24年度決算額	4,456	0	0	0	0	0	0	4,456
平成25年度決算額	4,396	0	500	0	0	0	0	3,896
平成26年度予算額	5,742	0	0	0	0	0	0	5,742

## 4. 総コストの概算

(単位：千円)

平成25年度のこの事業に従事している職員数		従事職員数	人件費(A)	平成25年度決算額(B)	総コスト (A) + (B)
一般職員	嘱託・臨時職員				
0.25	0.10	0.35	2,185	4,396	6,581
事業費の主な用途		堆肥購入助成、実証ほ委託等			

# 平成26年度 当初予算事業の概要説明書 (兼評価説明書)

## 5. 事業の実績・目標

活動 指標 ①	指標名	堆肥使用人数				単位	人
	説明や数式	有機質資材（ゆめあぐり等）を使用した人数					
	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標値	550	550	550	550		
	実績値	493	344				
	経費（千円）	4,846	4,031				
単位当たりのコスト	9.83	11.72					
活動 指標 ②	指標名	西脇ファーマーの認定者数				単位	人
	説明や数式	有機質資材（ゆめあぐり等）を使用し、兵庫県の慣行よりも減農薬・減化学肥料により生産する農家の数					
	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標値	0	50	55	65		
	実績値	0	47				
	経費（千円）	0	429				
単位当たりのコスト		9.13					
成果 指標 ①	指標名	堆肥使用量				単位	トン
	説明や数式	有機質資材（ゆめあぐり等）を使用した量					
	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000		
	実績値	5,846	4,041				
	経費（千円）	4,846	4,031				
単位当たりのコスト	0.83	1					
成果 指標 ②	指標名	面積				単位	m <sup>2</sup>
	説明や数式	西脇ファーマー認定者の栽培面積					
	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標値	0	800	850	950		
	実績値	0	758.3				
	経費（千円）	4,846	4,031				
単位当たりのコスト		5.32					
実績・成果等の説明	西脇ファーマーの認定に伴い、更なる有機質資材の使用によりますます環境型農業及び安心安全な生産物の流通が広がりを見せる中、毎年、ゆめあぐりを使用しているほ場（山田錦）が北播磨地域では1番とされている吉川町のほ場と成分等で類似してきている。						

## 6. 評価

1 次 評 価	評価ポイント	事業の優先度(緊急性)	4	事業の必要性	4	実施主体の妥当性	5
	事業の総合評価	直接のサービスの相手方	1	受益者負担の適切さ	4	市民ニーズの把握	3
	説明	継続実施 環境型農業の確立は一足飛びにはいかず、毎年継続していくことが必要であり、そうすることで市民の理解を得ながら、さらなる周知拡充を行い、地域環境を守っていくことが必要。					
2 次 評 価	評価ポイント	事業の優先度(緊急性)	4	事業の必要性	1	実施主体の妥当性	5
	事業の総合評価	直接のサービスの相手方	1	受益者負担の適切さ	5	市民ニーズの把握	3
	説明	継続実施 事業の内容は、主に、堆肥購入費の1/2を助成するというものであるが、黒田庄和牛頭数の減やおがくずの高騰により、堆肥購入の需要が供給量を超えている状態とのこと。「自然にやさしい循環型農業」、「良質で安全・安心な農産物の提供」という本事業の目的は市民の願いであるため、継続実施と判断したが、この状態での購入費助成はあまり意味を持たないため、和牛の頭数を増やすことへの支援を考えるなど、内容の見直しも必要であると考えられる。					